



地下1階は
「アンパンマンワールド」

夢いっぱい、アンパンマンの世界に飛び込もう！



アンパンマンの
顔をこねこね～

ジャムおじさんのパン
工場でパン屋さん気分。



バイキン城に雷製
造機発見！恐る恐る、
でも、近づきたい…。

パチリ！
記念撮影



地下1階の階段ホールのアンパンマン号は乗ること
ができるよ。(ただし動きません。)



エントランス(1階)

あちこちにアンパン
マンたちが隠れて
いる大空間。ほら、
「かくれんぼの木」
からもひょっこり。

●アンパンマンミュージアム
館内はまるで立体迷路!?
アンパンマンと仲間たちの世界へ迷い込もう。
あっちへ行く? こっちへ行く? 好きな場所を好きなように回ってね。



アンパンマンの大壁画(2・3階)

ダイナミック! やなせ氏がミュージアムのために描いた
壁画。お気に入りの仲間は見つかるかな?



名誉館長室
(2・3階)

やなせ氏が受賞した表
彰状や感謝状がたくさん。
本棚のだまし絵も
ユーモアいっぱい。



やなせたかしギャラリー(4階)

ここでしか見られないやなせ氏の絵がズラリ。企画
展示室では、貴重なアンパンマン絵本の原画などが
展示されているよ!



anpanman museum

香美市立 やなせたかし記念館
アンパンマンミュージアム



[キッズ対応]



TEL 0887-59-2300
営 9:30-17:00(最終入館16:30)
料 一般 800円、中高生 500円、
小人(3才～) 300円(詩とメルヘン絵本館 共通)
休 火曜(祝日の場合は翌日)
P 50台(詩とメルヘン絵本館 共有)
香美市香北町美良布1224-2 [MAP] P31 拡大②

※2025年3月29日にリニューアルオープン!

(料金改定予定。当誌面はリニューアル前の館内情報でご案内しています。)





※公共交通機関は便数が少ないため、自家用車以外ではタクシーが便利です。

アンパンマンミュージアムから車で約6分
やなせたかし朴ノ木公園
やなせ氏と妻・暢（のぶ）さんが眠る、生家跡地につくられた墓地公園。朴ノ木は地名であり、植物の名前。やなせ氏は、木質が柔らかく周囲を傷つけない朴ノ木をとても気に入っていたそう。

もっと、やなせワールド
足を延ばして、やなせ氏が育った場所やゆかりのスポットを訪ねてみよう！



【お問合せ・予約先】香美市観光協会（香美市観光ガイドの会 事務局）
TEL 0887-52-8560（平日9:00-18:00）

アンパンマンミュージアムから徒歩5分
生まれ故郷・香北町を訪ねる
香北町の中心部を回り、歴史ある大川上美良布神社ではやなせ氏が描いた絵馬や十二支のお守り（有料で頒布）もご紹介。

地元ガイドさんと回ろう
エピソードを聞きながら歩く魅力が増すこと間違いなし！

アンパンマンミュージアムから車で約30分
ごめん生姜地蔵
「ごめん駅の次はありがとう駅にしよう」というやなせ氏の提案で、愛称が「ありがとう駅」になった土佐くろしお鉄道「ごめん・なはり線」の後免町駅。駅前では、「ごめん生姜地蔵」がにっこり。



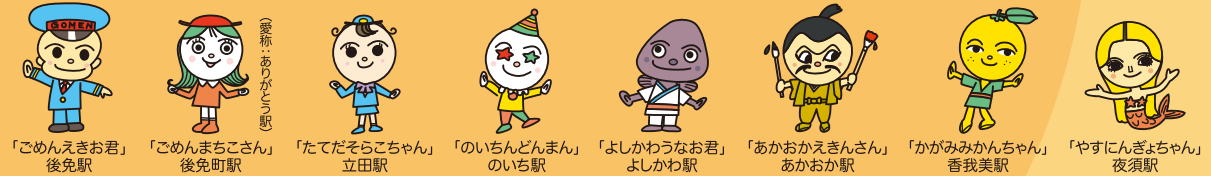
【お問合せ・予約先】南国市観光協会（南国市観光案内人の会 事務局）
TEL 088-855-3985（平日8:30-17:15）

アンパンマンミュージアムから車で約25分
少年時代を過ごした後免町を散策
小学2年生から約10年間を過ごした旧柳瀬医院跡地「やなせたかしごめん駅前公園」や、やなせ氏の支援を受け「やなせたかしロード」に生まれ変わった後免町商店街を巡ります。

心ときめく、ローカル線「ごめん・なはり線」

後免駅と奈半利駅を結ぶ土佐くろしお鉄道ごめん・なはり線。海側（南側）がオープンデッキの車両もあり、太平洋を見ながらゴトゴト…。列車の旅も味なもの。

◎やなせ氏がつくったキャラクターたちが、ものべがわエリアにある8駅でもお出迎え！



人生は、よろこばせごっこ
ロ、やなせたかし

アンパンマンミュージアムを満喫した後は、詩とメルヘン絵本館へどうぞ。洗練された空間には、アンパンマン以外の作品と絵本を中心にしたイラストレーションなどが整列。大人の「やなせワールド」を楽しみながら、静かな時間を心ゆくまで。

もうひとつのミュージアムは大人の楽しみ

アンパンマンミュージアムの至近
香美市立 **やなせたかし記念館 詩とメルヘン絵本館**
TEL 0887-59-2300
営 9:30-17:00（最終入館16:30）
料 アンパンマンミュージアムの入場料で入館可能。単館／一般450円、中高生200円、小人（3才～）100円
休 火曜（祝日の場合は翌日）
ロ 香美市香北町荏生野379（MAP1 P31 拡大②）
＊2025年3月29日にリニューアルオープン！（料金改定予定。当該面はリニューアル前の館内情報でご案内しています。）

手のひらを太陽に
ぼくらはみんな生きている
生きているから歌うんだ
ぼくらはみんな生きている
生きているからかなしいんだ
手のひらを太陽にすかしてみれば
まっかに流れるぼくの血潮
ミミズだってオケラだって
アメンボだって
みんなみんな生きているんだ
友だちなんだ
きつとみんなが聞いたことのある、この童謡。実は作詞はやなせ氏です。

『詩とメルヘン』
1973年から30年間にわたって刊行された読者投稿雑誌。やなせ氏が創刊から全ての表紙画を描き、自身で編集も。新しい抒情の世界を創作することに力を注ぎ、同誌からは日本を代表するイラストレーターや詩人が数多く輩出されています。



詩とメルヘン絵本館の南側
やなせたかし記念公園
やなせうさぎ像をぐるりと囲んで、アンパンマンと仲間たちの石像が集合！柚子の木に囲まれたベンチで休憩。周辺散策の休憩スポットに最適です。台座に書かれた「やなせ鬼の歌」にも注目。



やなせうさぎは分身？
やなせ氏が自画像がわりに描いていたキャラクター。闘うことをせず、ただ逃げるだけのうさぎを、自身の性格に似ていると感じていたそう。

